

2018. 7. 11 (水)

人権の根拠

原 真 和

神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。
(創世記 1 章 27 節)

世界人権宣言

今週のテーマは「私にとって大切なことば」ということですが、私は世界人権宣言の第 1 条を挙げたいと思います。

すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

この言葉は、私にとって大切であるだけでなく、私たちすべての人間にとって大切な言葉であると思います。スマートフォンを持っておられる方は、「世界人権宣言」を検索すると、外務省のサイトの日本語訳のページに行けると思います。英語で見たい人は、“Universal Declaration of Human Rights”を検索すれば、国際連合 United Nations のサイトに行けます。

世界人権宣言は、1948 年 12 月 10 日、国連で採択されました。今年は 2018 年ですので、採択 70 周年となります。12 月

10 日は、人権デーとなっていて、日本でも毎年、法務省が中心となって、全国で 1 週間にわたるさまざまなイベントを行っています。新聞にも毎年小さく出ていますが、知っておられましたか。

現代の社会において、人権は、幸いなことに、抽象的な観念ではなく、憲法やさまざまな法律、さまざまな国際条約に定められている具体的な権利です。人権の明文化の歴史の中では、アメリカ合衆国独立宣言やフランス人権宣言などが重要な文書として挙げられます。それらは非常に優れた宣言ですが、現実的には、一部の人の人権の宣言にとどまっていたという見方もできます。これに対して、世界人権宣言は、「すべての人間」とはっきり記していて、国際連合を背景とする国際法体系の中で、すべての人間の尊厳と平等性を宣言した最初の権威ある文書であり、現在も有効です。

この宣言は、その後のさまざまな人権に関する国際条約の基礎となっていて、前文と条文が 30 あります。そんなに長いものではありません。ですから、ぜひ検索していただいて、時々読み直したいものです。

人権に関する疑問

しかし、この世界人権宣言を読みますと、さまざまな疑問が出てくるのではないのでしょうか。そもそも何を根拠にこのようなことが言えるのだろうか。人権の根拠はどこにあるのでしょうか。科学から人権が出てくるものではありません。むしろ人権の観点から、科学の研究や利用のあり方に対して一定の制限が必要なのです。また、資本主義や市場原理から人権が出てくるわけでもありません。むしろ人権の観点から、労働者や消費者の権利の保護が必要なのです。

また、憲法や法律、宣言や条約というものは、人間が書いたものです。人間が書いて、政治的なプロセスを経て議決され、効力を持つに至っている文書です。人間が書いたものですから、歴史的な限界があるでしょうし、完全無欠のものではないでしょう。

ジェンダー・ギャップと死刑制度

ところで、日本は人権の先進国でしょうか。例えば、世界経済フォーラムによる世界ジェンダー・ギャップ報告という資料があります。その2017年版によると、日本のジェンダー・ギャップ（男女の格差）は、144カ国中114位でした。また、アムネスティによると、2017年末の時点で死刑を法律上廃止している国は106カ国あり、死刑の執行をやめている国を含めると142カ国になります。2017年に死刑の執行があった国は23カ国で、日本はその中に入っています。日本は、最近も死刑の執行があり、国際的な批判を受けているところです。死刑制度は、世界では少数派ですが、日本で

は80%以上の人がこの制度を支持しているとされています。ジェンダー・ギャップと死刑制度は、論理的には直接結びつかないと思われませんが、データ上は死刑がある国のジェンダー・ギャップは大きいという傾向が見取れます。

採択から70年を経た今でも、世界人権宣言の内容には、まだまだ実現していない人類の課題であると言わなければならないことが含まれています。例えば、国を立ち去る権利、他の国に避難する権利です。世界人権宣言の内容は、日本だけでなく、今なお人類全体の課題だと思います。

生物としての人間の感情

人間の尊厳と平等性の実現に対して妨げになるさまざまな感情が、人間にはあると思います。そういった感情、人間の尊厳と平等性に反する感情が自分の中にもあることを見つめることは、大切なことではないかと思えます。人間は生物の一種です。生物の一つの種として進化してきた過程の中で、さまざまな感情を獲得してきました。自己の生存、また自己が属している集団の生存のために、人間は自己中心的な傾向を持っています。人間は季節にかかわらず、いつも性欲がありますが、これは生き物としては特殊です。また、他の集団への警戒心を持っているし、さまざまな不安を持っています。また、ルールを破った人が罰せられることを喜ぶ感情も人間は持っています。このような生物としての人間が持っている傾向を科学的に自覚することは、大切なことだと思えます。

人権の存在論的根拠

また、歴史的、社会的に形成されてきた世界観や人間観、また伝統や慣習の中には、今日の人権の観点からは見直さなければならないことがいろいろあると思います。歴史的に見れば、人権思想は、西洋の歴史の中で明文化されてきた部分が大きいでしょう。それでは、人権は西洋思想にすぎないのでしょうか。

国連憲章の前文には、「基本的人権についての信念」という言葉が見られます。世界人権宣言の前文も、これを引用しています。この「信念」という言葉ですが、英語では“faith in fundamental human rights”という言い方になっています。神への信仰を言う場合と同じ言葉、faith in 何々という言い方になっています。

人権は観念や思想にすぎないのでしょうか。

か。人権には存在論的な根拠があるのでしょうか。人権の存在論的な根拠は、human being、すなわち人間という存在そのものにあると思います。古代のイスラエルの人々たちも、そのことに気付いていて、そのことを創世記1章27節の言葉のように表現したのではないのでしょうか。先ほど私たちが聞いた言葉です。

人権を法律に定められているから尊重するというのも、もちろん大切です。しかし、それだけではなくて、一人一人の人間の存在に伴っているものとして、肌感覚として、人権を実感できる者でありたいと思っています。皆さんも、この関西学院でのさまざまな学びの体験をとおして、人間の尊厳と平等性を実感できる人になっていただきたいと思っています。

(聖和短期大学教授)